

公明が訴え、政治が動いた

胆道閉鎖症の早期発見へ

カラーカードを母子健康手帳に

たん どう へい さ しょう

公明党は、いのちを守り、育む取り組みに全力を挙げてきました。切実な訴えに素早く反応し、たとえ難しい課題でも、地方と国政の強力な連携で道なき道を開く。真摯な姿勢に、関係者からは称賛の声が上がっています。

「市議から県議、国会議員へと話がすいスピードで進み、公明党のネットワーク力を実感しました。本当に感謝しています！」。難病の胆道閉鎖症などの子どもを持つ母親のグループ「肝ったママ」の酒井有理さんは、笑顔で語ってくれました。赤ちゃんの便の色から同症を早期に発見できる「便色調カラーカード」が、今年4月から母子健康手帳に原則とじ込まれることにな

り、酒井さんら患者家族から喜ばれています。一部自治体で配布されているカラーカードは、神奈川県内の一部でもパイロット(試験)事業として配布されています。しかし、同県の試験事業は今年3月末まで。関係者の不安が募る中、2011年7月中旬、横浜市議会公明党の加納重雄議員のもとへ酒井さんから相談が寄せられました。加納議員は、公明党の西村恭仁子県議と

改訂の検討が始まる直前でした。

その後、加納議員らは、川崎市議会公明党の山田晴彦議員とも連携。山田議員はこれに先立ち、酒井さん

わたりカラーカードの普及に取り組んできた国立成育医療研究センター病院長の松井陽氏が、国会内に公明党の古屋範子衆院議員を訪ね、国政の場で取り上げるよう要望しました。その1週間後の衆院厚生労働委員会。古屋さんの主張に対し、政府は「積極的に検討していく」と約束したのです。「まさか国会まで話が届くなんて……」。インターネット中継で傍聴していた酒井さんは、当時の感動をこう振り返ります。

その後も、公明党は国会内での勉強会や国会質問などで実現を迫った結果、同年12月末、母子健康手帳にカラーカードをとり込む法改正の省令が出されました。

松井病院長は、公明党を「先頭に立って応援してくれた」と高く評価しています。「一人の声」を実現するとの公明党の熱意が、また一つ結実したのです。

患者家族「ネットワーク力を実感。本当に感謝している」

らと協力して、川崎市独自でカラーカードの母子健康手帳へのとり込み配布を実現していました。そして、8月16日、公明党議員と酒井さん、長年に1度の同手帳



カラーカードの母子健康手帳へのとり込みを喜ぶ酒井さん(左端)、古屋さん(右端)ら12日、横浜市内

うんちの色に注意!

カラーカードでチェックしましょう。

便の色が白く、または赤い、または黒い、または緑の便が出た場合は、医師に相談してください。

医師の診察を受ける時は、このカードを必ずお持ちください。



川崎市で導入されているカラーカードのページ

語句説明

【胆道閉鎖症】 肝臓から十二指腸へ胆汁を送る胆管が詰まり、胆汁が流れなくなる病気。出生後の約1万人に1人の割合で発症する。手術が遅れると生存率は一気に低下するため、早期発見・手術が重要となる。